

京都府知事賞

「96万円の期待値」

舞鶴市立城北中学校3年 福島蒼

96万円。これは1年間に中学生一人当たりに使われている税金の金額です。勉強に集中できる環境、高め合える仲間、豊富な教材一つ一つの存在を当たり前だと思いませんか。義務教育を税金のおかげで無償で受けられることは決して当たり前のことではないのです。

アフリカの南の地域では五人に一人の子供は学校に行けていません。それには様々な理由がありました。一つ目は学ぶ環境が整っていないことです。学校が近くになかったり先生の数が少ないため十分な能力がない大人が先生になっているという現状もあるそうです。二つ目は子どもが働かないといけなからです。最初は学校に通っていてもやがて家計を助けるために働かないといけなくなり、最終学年まで通えていない子どもがたくさんいるそうです。他にも理由はありますがこれらの本人の意思とは関係ない理由で教育を受けられない子どもは大勢います。他の国の教育の現状を調べていく上でたくさんでてきたのは勉強ができて嬉しそうに喜んでいる子どもの笑顔でした。一人一人に合った学びの場が与えられていることのありがたみを身に染みて感じます。

集中して勉強に取り組める環境の整った教室、一人一人に配布される教科書やタブレット、なぜこんなにも税金は子どもの教育に使われているのでしょうか。

それは各教科書の裏に記載されている「この教科書は、これからの日本を担うみなさんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という言葉が全てじゃないかなと感じます。これから私たちは日本を設計するリーダーになっていきます。教育に使われている税金はそんな私たちへの期待値です。私たちが大人になった時に同じ事をその時の子ども達にしてくれたらそれで良いという願いの込められたある意味バトンなのかもしれません。そんな期待に応えられるように、また今まで渡し継がれてきたバトンを次世代へと繋いでいけるようにしないとイケません。

十分な教育を受けられない人が大勢いる中充実した環境で何不自由なく勉強に集中できることは本当に幸せなことです。そんな教育の手助けをしてくれている税金は他の場面でもたくさん使われています。医療、福祉、整備など当たり前だと思っているものも実は税金によって行われているかもしれません。中学生である私たちも立派な納税者です。高い買い物であればあるほど税金も高くなるので厄介に感じたこともあるかもしれません。税金は寄付のようなものです。自分のためにはならないかもしれない。だけど必ず誰かの生活を豊かにするために使われます。だから私は見えない誰かに優しさを贈るつもりで堂々と納税したいし、今使っている教科書やタブレットも大切に使っていきたいです。